

PIMCO 米国バンクロンファンド<世界通貨分散コース>

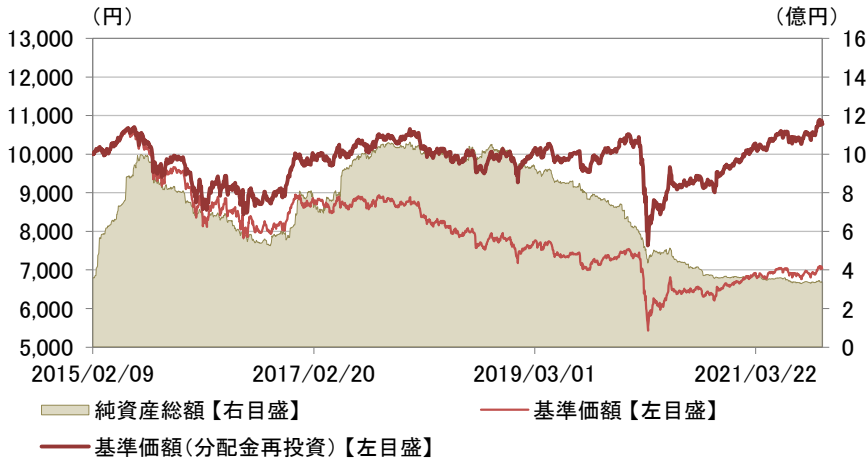
月次レポート

2021年
10月29日現在

追加型投信/海外/その他資産(バンクロン)

<世界通貨分散コース>(毎月分配型)

■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.0%	3.2%	4.7%	19.3%	8.6%	7.8%

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	7,036円
前月末比	+100円
純資産総額	3.36億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第80期	2021/10/11	40円
第79期	2021/09/13	30円
第78期	2021/08/11	30円
第77期	2021/07/12	30円
第76期	2021/06/11	30円
第75期	2021/05/11	30円
設定来累計		3,400円

■資産構成

	比率
投資信託証券	99.3%
ピムコ バンクロン ファンドD - クラスY(World)	99.2%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.1%
コールローン他	0.7%

<世界通貨分散コース>(年2回分配型)

■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.1%	3.3%	4.7%	19.3%	8.7%	7.6%

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	10,729円
前月末比	+206円
純資産総額	0.87億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第14期	2021/10/11	10円
第13期	2021/04/12	10円
第12期	2020/10/12	0円
第11期	2020/04/13	0円
第10期	2019/10/11	0円
第9期	2019/04/11	0円
設定来累計		30円

■資産構成

	比率
投資信託証券	99.1%
ピムコ バンクロン ファンドD - クラスY(World)	99.0%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.1%
コールローン他	0.9%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。・分配金実績がある場合は、ファンドの騰落率は分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

PIMCO 米国バンクロンファンド<世界通貨分散コース>

月次レポート

2021年
10月29日現在

追加型投信/海外/その他資産(バンクロン)

■当月の基準価額の変動要因(概算)

<世界通貨分散コース>(毎月分配型)

	寄与度(円)
利子収入	26
為替取引によるプレミアム/コスト	21
為替損益	128
その他(売買損益等)	-25
信託報酬	-10
基準価額(分配金込み)	140

<世界通貨分散コース>(年2回分配型)

	寄与度(円)
利子収入	40
為替取引によるプレミアム/コスト	32
為替損益	195
その他(売買損益等)	-34
信託報酬	-16
基準価額(分配金込み)	216

・基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

・数値の一部はシミュレーションを用いているため、実際のファンドの数値とは異なります。

・為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)は、「世界通貨の短期金利(組入各通貨の短期金利の平均) - 米ドルの短期金利(米ドル1ヵ月LIBOR)」(プラスがプレミアム、マイナスがコスト)相当として簡便的に算出したものであり、実際の値とは異なります。

・為替損益は、「世界通貨」の円に対する為替評価損益の概算値です。

・その他(売買損益等)は、基準価額の変動幅から他の項目の合計を差し引いて算出しています。

※「世界通貨」および「世界通貨の短期金利」の詳細については、後記をご覧ください。

■【参考】投資対象通貨の対円での月間騰落率

先進国/新興国	通貨	騰落率
先進国	米ドル	1.6%
	カナダドル	4.7%
	ユーロ	2.2%
	英ポンド	4.2%
	豪ドル	6.4%
	韓国ウォン	2.7%
新興国	メキシコペソ	2.2%
	ブラジルレアル	-2.5%
	トルコリラ	-4.8%
	ロシアルーブル	5.2%
	インドネシアルピア	2.5%
	インドルピー	1.3%

・PIMCO 米国バンクロンファンド<世界通貨分散コース>が投資する外国投資信託における投資対象通貨の対円での月間騰落率を参考のために掲載したものであり、実際のファンドの運用成果への寄与度とは異なります。

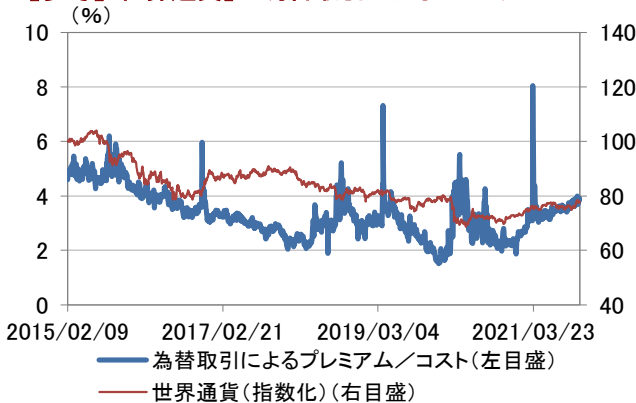
・当ファンドは、通貨の分散を考慮し、原則として12通貨へ投資を行います。また、各通貨の実質的な配分が概ね均等になることを基本とします。対象通貨については世界各国の長期的な経済構造の変化等を考慮し、入替えを行う場合があります。

・先進国、新興国のグループ分けはIMF(国際通貨基金)の定義に基づいています。

・為替は、ブラジルレアル、メキシコペソ、トルコリラについてはBloombergの公表レートを、それ以外の通貨については三菱UFJ銀行発表の対顧客電信売買相場の仲値をそれぞれ使用しております。

・なお、ファンドにおける為替取引にあたっては、一部新興国通貨の場合、「NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引」を利用する場合があります。

■【参考】「世界通貨」の為替取引によるプレミアム/コスト(シミュレーション)と為替レート推移(設定来)



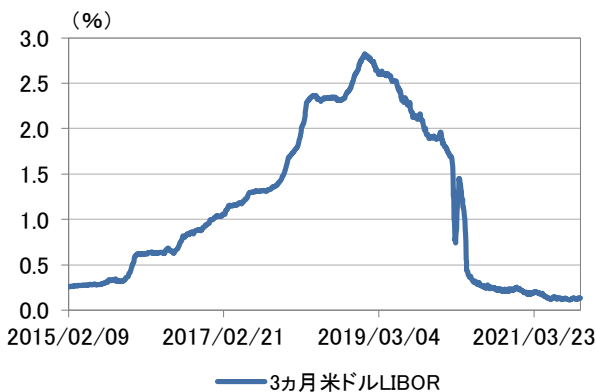
・為替取引によるプレミアム/コストは「世界通貨」と米ドルの短期金利の金利差(プラスがプレミアム、マイナスがコスト)相当であり実際の為替取引によるプレミアム/コストとは異なります。為替市場の状況によっては、金利差相当分以上の為替取引によるコストとなる場合があります。

・「世界通貨」と米ドルの短期金利: 米ドル、英ポンド、ユーロは1ヵ月LIBOR、カナダドルは銀行手形1ヵ月の利回り(DataStreamのデータに基づき作成)、豪ドルは銀行手形1ヵ月の利回り、ブラジルレアル、メキシコペソ、インドルピー、インドネシアルピア、韓国ウォン、トルコリラ、ロシアルーブルはJPモルガンELMI+の利回り(Bloombergのデータに基づき作成)。

・「世界通貨」は米ドル、カナダドル、ユーロ、英ポンド、豪ドル、韓国ウォン、メキシコペソ、ブラジルレアル、トルコリラ、ロシアルーブル、インドネシアルピア、インドルピーの各変動率の平均を指数化(2015年2月9日=100)したものです(合成通貨値)。

・「世界通貨の短期金利」は、上記対象通貨の短期金利の平均です(合成値)。

■【参考】3ヵ月米ドルLIBORの推移(設定来)



出所: DataStream

・通常、バンクロンのクーポンは、基準金利(通常、LIBORが用いられ、フロアと呼ばれる下限金利が設定されています)に一定のスプレッドが上乘せされる変動金利となっています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>

月次レポート

2021年
10月29日現在

追加型投信/海外/その他資産(バンクローン)

・米ドル建てのバンクローン、公社債等への実際の投資は、「ピムコ パミュダ バンクローン ファンド(M)」を通じて行います。下記データは、運用会社であるピムコ社の資料(現地月末基準)に基づき作成したものです。

実質的な投資を行うピムコ パミュダ バンクローン ファンド(M)の運用状況

バンクローンとは
銀行等の金融機関が主に投資適格未満(BB格相当以下)の事業会社等に対して行う貸付債権(ローン)のことです。バンクローンのクーポン(利子)は主に短期金利(基準金利)を基に変更されます。なお基準金利には通常、フロアと呼ばれる下限金利が定められており、クーポンの極端な低下を防いでいます。バンクローンは、相対的に信用力が低い企業に対して行われるローンですが、担保等が付されており、通常の債券に比べて弁済順位が高くなっています。

■ポートフォリオ特性

	ファンド
想定利回り	4.9%
直接利回り	4.1%
デュレーション	0.5
平均格付	B-

- ・想定利回りとは、計算日時点の組入バンクローン等を満期まで保有することを前提として、将来の金利動向を見込んだクーポンレートをを用いて算出した複利利回りを、組入比率に応じて加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別銘柄等についての表面利率を資産価格で除し、組入比率に応じて加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価に基づくものであり、売却や早期償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、フロアを考慮して算出したバンクローンの金利感応度を表します。
- ・平均格付とは、基準日時点で当該ファンドが保有しているバンクローン等に係る信用格付を加重平均したものであり、当該ファンドに係る信用格付ではありません。
- ・上記はすべてピムコ社独自の算出方法によるものです。

当ファンドが主要投資対象としているバンクローンは、一般に、クーポンが基準金利を基に変更される変動金利のため、固定金利の債券に比べ市場の金利変動による価格変動リスクが小さくなります。また、上記のバンクローンの想定利回り算出にあたっては、計算日時点の残存期間別の金利水準を基に将来の金利動向を見込んだ数値で利回りを算出しています。上記利回りは将来の利回り水準を示唆、保証するものではありません。

■格付分布

格付種類	比率
A格以上	-17.8%
BBB格	1.4%
BB格	34.6%
B格	75.0%
CCC格以下	6.9%

- ・格付は、S&P、Moody'sのうち最も高い格付を表示しています。
- ・上記2社の格付を取得していない場合は、Fitchまたはピムコ社による独自の格付を表示します。
- ・先物取引、スワップ取引、オプション取引等を考慮して算出しているため、取引内容によってはマイナスの値が表示されることがあります。
- ・なお、付加記号(＋、－等)を省略して集計し、S&Pの格付記号に基づき表示しています。

■種別組入比率

種別	比率
バンクローン	87.2%
短期金融資産等	6.4%
社債等	6.4%

- ・比率はピムコ パミュダ バンクローン ファンド(M)の純資産総額に対する割合です。
- ・その他債券などバンクローン以外の組み入れがある場合、社債等を含みます。
- ・短期金融資産等には、ピムコ社が現金同等資産と判断した債券等が含まれます。

■組入上位10業種

業種	比率
1 テクノロジ・ハードウェア・機器	21.8%
2 ヘルスケア機器サービス	14.8%
3 消費者サービス	14.8%
4 素材	9.5%
5 メディア	7.6%
6 各種金融	7.4%
7 耐久消費財・アパレル	6.6%
8 小売	5.1%
9 電気通信サービス	4.2%
10 運輸	3.8%

■組入上位10銘柄

銘柄	クーポン	償還日	種別	業種	組入銘柄数: 251銘柄	
					格付	比率
1 MILANO ACQUISITION CORP TL B 1L	4.7500%	2027/10/01	バンクローン	医薬品・バイオテクノロジー	B+	1.8%
2 ANCESTRY COM TL 1L	3.7500%	2027/12/06	バンクローン	テクノロジ・ハードウェア・機器	B+	1.6%
3 CLEAR CHANNEL WORLDWIDE SR UNSEC 144A	7.7500%	2028/04/15	社債等	メディア	CCC	1.5%
4 PERATON CORP TL B 1L	4.5000%	2028/02/01	バンクローン	各種金融	B+	1.5%
5 GIP II BLUE HOLDING LP TL B 1L	5.5000%	2028/09/29	バンクローン	エネルギー	BB-	1.4%
6 WHITE CAP BUYER LLC TL B 1L	4.5000%	2027/10/19	バンクローン	素材	B	1.4%
7 ADVANTAGE SALES & MARKETING TL B 1L	5.2500%	2027/10/28	バンクローン	消費者サービス	BB-	1.4%
8 SOLERA TL B 1L	4.5000%	2028/06/02	バンクローン	テクノロジ・ハードウェア・機器	B	1.4%
9 HUB INTERNATIONAL LTD TL B	2.8748%	2025/04/25	バンクローン	各種金融	B	1.3%
10 UNITED SITE SERVICES TL B 1L	4.7500%	2024/08/25	バンクローン	消費者サービス	B+	1.3%

・バンクローンにおいて償還日は弁済期限を表します。

- ・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。
- ・原則として、比率は組入バンクローン等の評価額に対する割合です。
- ・業種はピムコ社の分類によります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

PIMCO 米国バンクロンファンド<世界通貨分散コース>

月次レポート

2021年
10月29日現在

追加型投信／海外／その他資産(バンクロン)

■運用担当者コメント

【市況動向】

当月の米国バンクロン市況は上昇しました。原油価格の上昇等を受けてスプレッド(国債に対する上乘せ金利)が縮小する局面もありましたが、中国における景気減速懸念が高まったこと等から投資家のリスク回避姿勢が高まったこと等を受けてスプレッドは拡大し、月を通じてみるとスプレッドは拡大しました。スプレッドは拡大したものの、金利収入がプラス要因となり、米国バンクロン市況は上昇しました。

セクター別では、公益などが市場平均を上回るパフォーマンスとなった一方、放送などは市場平均を下回る結果となりました。

【運用状況(分配金実績がある場合、基準価額の騰落は分配金再投資ベース)】

当ファンドでは、外国投資信託への投資を通じて米ドル建てのバンクロンを高位に組み入れた運用を行いました。なお、<円インカム>(毎月分配型)/(年2回分配型)については、原則として投資する外国投資信託において、為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図る運用を行いました。<世界通貨分散コース>(毎月分配型)/(年2回分配型)については、投資する外国投資信託において先進国と新興国の複数の通貨に分散投資を行い、各対象通貨の配分が概ね均等となるよう運用を行いました。

当月の各コースの基準価額の騰落および変動要因は以下の通りです。

■ <円インカム>(毎月分配型)/(年2回分配型)

バンクロンの利子収入を享受したこと等がプラスとなったものの、為替ヘッジによるコストが生じたこと等がマイナスとなり、基準価額は下落しました。

■ <米ドルインカム>(毎月分配型)/(年2回分配型)

米ドル高円安となったことやバンクロンの利子収入を享受したこと等がプラスとなり、基準価額は上昇しました。

■ <世界通貨分散コース>(毎月分配型)/(年2回分配型)

円に対して対象通貨全体高が進行したことや、為替取引によるプレミアムおよびバンクロンの利子収入を享受したこと等がプラスとなり、基準価額は上昇しました。

【今後の運用方針】

米国については、2021年7-9月期の成長率は新型コロナウイルスの変異感染拡大等により市場予想を下回る結果となったものの、経済活動の再開が進んでいることから10-12月期には持ち直すとみております。また、2022年の成長率については家計支援のための現金給付による消費押し上げ効果が剥落することなどから、2021年に比べて鈍化すると予想しています。また、金融政策については、利上げの開始時期については2023年と予想しております。ただし、インフレ率の上昇要因の解消には時間を要するとみており、米連邦準備制度理事会(FRB)も持続的なインフレ率の上昇が長期的なインフレ期待の形成に繋がることを回避したいとの意向をみせていることから、予想よりも利上げ開始が前倒しされる可能性もあると考えています。バンクロン市場においては、2021年は経済活動の再開に伴う企業のファンダメンタルズの回復やデフォルト率の改善が見込まれていることなどもプラス材料です。一方で、FRBによる資産購入規模の縮小が行われた場合のボラティリティの上昇には注視が必要とみています。

運用においてはリスクの取得には慎重な姿勢を維持しながら、長期的なファンダメンタルズに着目した慎重な銘柄選択および損失の軽減が最も重要であると考えております。引き続き、強固な資本構成を有し、高い参入障壁や堅実な成長性によって事業基盤が安定している銘柄を中心に投資を行う方針です。

・ピムコジャパンリミテッドの資料に基づき作成しています。・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

■本資料で使用している指数について

・JPモルガンELMI+とは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している新興国の現地通貨建ての短期金融市場の収益率を表す指数で、主に新興国の為替のフォワード取引等をもとに算出される指数です。JPモルガンELMI+は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しております。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託から分配金が支払われるイメージ

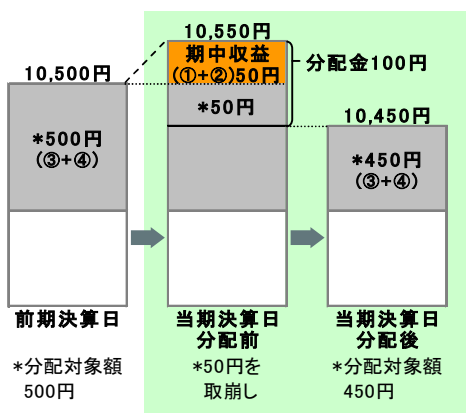


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

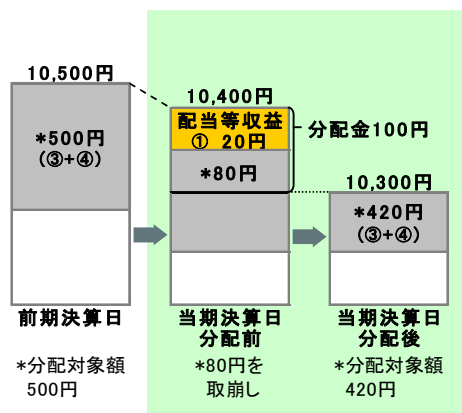
分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



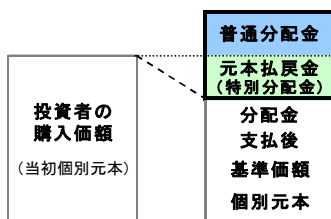
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金：当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

収益調整金：追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

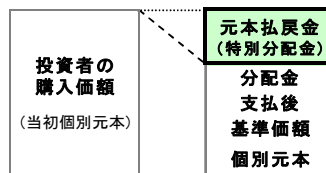
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

購入時手数料に関する留意事項

お客さまにご負担いただく購入時手数料の具体例は以下の通りです。販売会社によっては金額指定(購入時手数料を含む場合と含まない場合があります)、口数指定のいずれかのみのお取扱いになる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

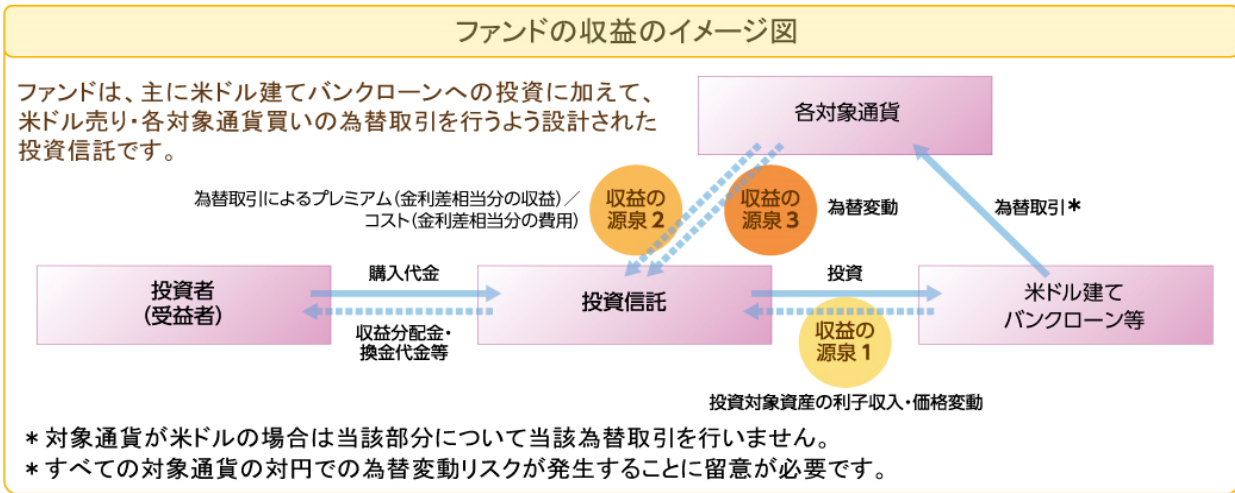
[金額を指定して購入する場合](購入時手数料を含む場合)

例えば、100万円の金額指定でご購入いただく場合、100万円の中から購入時手数料(税込)をご負担いただきますので、100万円全額が当該ファンドの購入金額となるものではありません。

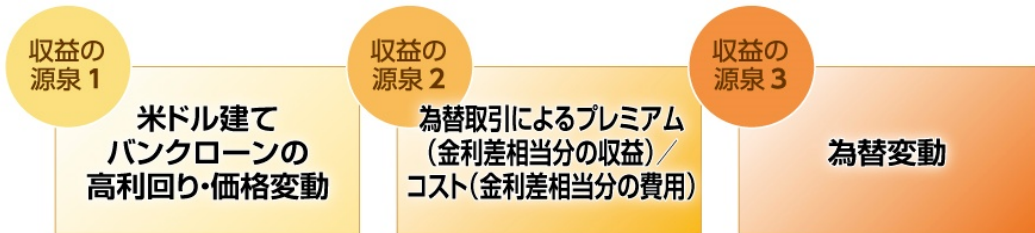
[口数を指定して購入する場合]

例えば、基準価額10,000円(1万口当たり)の時に100万口ご購入いただく場合、購入時手数料=(10,000円÷1万口)×100万口×手数料率(税込)となり、100万円と購入時手数料の合計額をお支払いいただくことになります。

ファンドの収益のイメージ



● ファンドの収益の源泉としては、以下の3つの要素があげられます。



● ファンドにおける収益の源泉と基準価額の変動要因は以下の通りです。

それぞれの収益源に相応してリスクが内在していることに留意が必要です。



・ただし、為替市場の状況によっては、為替取引によるプレミアム／コストが、金利差相当分からカイ離する場合があります。

PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>

追加型投信／海外／その他資産(バンクローン) ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

米ドル建てのバンクローン(貸付債権)、公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

投資対象 米ドル建てのバンクローンを実質的な主要投資対象とします。

- ・主として円建外国投資信託への投資を通じて、米ドル建てのバンクローン、公社債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)への投資も行います。
- ・投資する米ドル建てのバンクローン、公社債等は、原則として取得時においてCCC一格相当以上の格付けを取得しているものに限りします。

運用方法 投資対象とする円建外国投資信託への投資は高位を維持することを基本とします。

運用の委託先 投資信託証券への運用の指図に関する権限をピムコジャパンリミテッドに委託します。

為替対応方針 投資する外国投資信託においては、先進国と新興国の複数の通貨(以下「対象通貨」といいます。)に分散投資を行い、各対象通貨の配分は概ね均等とすることを基本とします。原則として、当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り、各対象通貨買いの為替取引を行い、これにより、「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)」、「為替差益／差損」が生じます。

・為替取引とは、為替予約取引等*を利用することにより、米ドル売り、各対象通貨買いを行うことをいいます。為替取引を行うことにより、各対象通貨ベースでのバンクローンへの投資効果を追求します。

* 為替取引にあたっては、一部新興国通貨の場合、「NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引」を利用する場合があります。

※NDF取引とは、将来の所定の期日に当該通貨の受け渡しを行わず、主に米ドルなど主要通貨で差金決済のみ可能な為替先渡し取引(デリバティブ取引)です。NDF取引では、市場の期待値(需給)や規制の影響を大きく受けて価格が形成されます。そのため、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)は、理論上期待される短期金利差から大きくカイ離する場合があります。

<対象通貨の配分について>

・通貨の分散を考慮し、原則として12通貨(米ドル、カナダドル、ユーロ、英ポンド、豪ドル、韓国ウォン、メキシコペソ、ブラジルレアル、トルコリラ、ロシアルーブル、インドネシアルピア、インドルピー)へ投資を行います。また、各通貨の実質的な配分が概ね均等になることを基本とします。

・対象通貨については、世界各国の長期的な経済構造の変化等を考慮し、入替えを行う場合があります。なお、資本規制等が設けられ、継続的な投資が困難となった場合等には、当該通貨を除外することがあります。

<為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)>

・各対象通貨の短期金利が米ドルの短期金利より高い場合、「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)」の獲得が期待できます。一方、各対象通貨の短期金利が米ドルの短期金利より低い場合、「為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)」が生じます。

ただし、為替市場の状況によっては、為替取引によるプレミアム／コストが、金利差相当分からカイ離する場合があります。

■分配方針

・分配頻度の異なる「PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(毎月分配型)」と「PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(年2回分配型)」があります。

・「毎月分配型」は毎月の決算時(11日(休業日の場合は翌営業日))に収益分配を行います。「年2回分配型」は年2回の決算時(4・10月の各11日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

「毎月分配型」

・原則として、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。

・分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

「年2回分配型」

・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ファンドの仕組み

・ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。

<投資対象ファンド>

ピムコ バミューダ バンクローン ファンド D - クラスY(World)

マネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)

・各ファンド間でスイッチングが可能です。スイッチングの際の購入時手数料は、販売会社が定めるものとします。また、換金するファンドに対して税金がかかります。なお、販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは、販売会社にご確認ください。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>

追加型投信／海外／その他資産（バンクローン）

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、公社債等の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入公社債等の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
為替変動 リスク	組入外貨建資産の米ドル換算した額については、米ドル売り、各対象通貨買いの為替取引を行うため、各対象通貨の対円での為替変動の影響を大きく受けます。 為替取引を行う場合で各対象通貨の金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分が為替取引によるコストとなります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上の為替取引によるコストとなる場合があります。 為替に関する取引規制等がある場合など、通貨によっては、取引量が少なく需給動向等の影響を受けやすいため、市場で取引もしくは公表されている金利と大きく乖離した金利水準をもとに取引されることがあります。このため、各対象通貨の金利が米ドルより高いときであっても、為替取引によるコストが生じる場合があります。
信用 リスク	組入有価証券等（バンクローンを含みます。以下同じ。）の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。また、バンクローンは、公社債と比べ、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。
カントリー リスク	新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、為替変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

ファンドは、格付けの低いバンクローンを投資対象としており、格付けの高い公社債等への投資を行う場合に比べ、信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。

・金融危機の発生等により、バンクローン等の市場流動性が極端に低下した際には、委託会社の判断により、購入・換金の申込みを中止することがあります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>

追加型投信/海外/その他資産(バンクローン)

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位/販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位/販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行の休業日 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情(投資対象証券の購入・換金の制限、流動性の極端な減少等)があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2023年10月11日まで(2015年2月9日設定)
繰上償還	各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合、または各ファンドの受益権の口数を合計した口数が30億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。 なお、投資対象とする外国投資信託が償還する場合には繰上償還となります。
決算日	■PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(毎月分配型) 毎月11日(休業日の場合は翌営業日) ■PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(年2回分配型) 毎年4・10月の11日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	■PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(毎月分配型) 毎月の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。 ■PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(年2回分配型) 年2回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。) 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>

追加型投信/海外/その他資産(バンクローン)

手続・手数料等

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.3%(税抜 3%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.87%(税抜 年率1.7%)**をかけた額
ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用(信託報酬)はかかりませんので、お客さまが負担する実質的な運用管理費用(信託報酬)は上記と同じです。

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
丸三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第167号	○			